

## 越前町議会・令和4年12月定例会一般質問【長谷川眞恵議員】

(令和4年12月6日 午後1時00分 開始)

○5番(長谷川眞恵君) 議長のお許しをいただきましたので、質問に入らせていただきます。

先日、えちぜん男女共同参画・青少年健全育成のつどいに行っていました。今回は青少年健全育成大会との合同開催でしたが、越前町の男女共同参画のつどいは平成17年度から16回にわたり開催されてきました。この間、男女共同参画ネットワークなど関係者の皆様におかれましては、つどいはもとより、街頭での啓発活動などの地道な活動が、今日の越前町の男女共同参画に関する意識の醸成につながっているものと、改めて敬意を表するものでございます。

近年、私たちを取り巻く社会環境は、少子高齢化の進展や家族形態の変化、個人の価値観の多様化など、大きな転換期を迎えています。こうした社会環境が変化する中で、男女が性別にかかわらず、主体的に行動することが一層求められています。しかし、依然として、性別による固定的な役割分担やそれに基づく社会の制度や慣行が一部では残っており、家庭、職場、学校、地域などのあらゆる場面において、解決していかなければならない課題が存在しているのが現状です。

今後も行政と町民、事業者、ネットワーク等関係機関の皆様が連携し、積極的な取組みを進める必要があると思いますので、町におかれましても、今後とも一層のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

それでは、質問に入らせていただきます。

高齢化社会の孤独死の対策について伺います。

我が国は超高齢社会の中にあります。当然のことながら、福井県においても、越前町においても、人口の超高齢化が急速に進んでおります。超高齢社会は様々な深刻な問題を提起しておりますが、中でも最も悲惨なのが孤独死の現実であるように思います。

大家族制度から核家族制へと家族の形態が変わり、息子あるいは娘世帯が独立して核家族を営んでいるうちに、両親世帯が高齢化して、要介護状態になって、いわゆる老老介護の問題が起これ、そのうちにいずれかの両親が死亡することで高齢独居世帯、高齢者独り暮らしの世帯となり、そのうちに誰にもみとられずに孤独死してしまうという悲惨な現実があります。

NHK総合テレビは、2010年1月に「“無縁死”3万2千人の衝撃」という番組を放送しました。NHK取材班が全国の全自治体へ、孤独死、無縁死について調査した結果、年間3万2,000人が孤独死しているということが分かりました。衝撃的な数字です。1日に約88人が、この国のどこかで、誰にもみとられずに孤独死、無縁死しているのです。そして、それは決してどこかで起きている現実ではないのです。ある民生委員の方の体験談ですが、民生委員として訪問していた独り暮らしの80代の女性が、誰にもみとられずに独り寂しく亡くなりました。そして、2日後に発見されたということがありました。民生委員として無力感を味わいましたと述べておられます。

そこで、孤独死対策の本町での取組み状況について伺います。越前町でも様々な施策を行っていますが、超高齢社会と言われる現代のように、深刻な多くの問題を抱えている対象者への支援の在り方をいま一度、見直すことが必要と思

われますので、以下の3点を提案いたします。

1点目は、役場の防災安全課を含む福祉関係各課や町内の関係機関、警察、人権擁護委員会、県健康福祉センター、居宅介護支援事業所、ケアマネ連絡会、社協、民生委員・児童委員協議会、宅配業者関係等々による越前町地域見守りネットワークを組織して、定期的あるいは臨時的に情報を交換、情報を共有して、支援が必要な対象者への有機的、複合的、重層的にアプローチを行ったらいかがでしょうか。

2点目に、ネットワーク会議では情報交換、情報共有にとどまらずに、多くの問題を抱える事例、いわゆる8050問題、7040問題、9060問題や虐待、生活困窮、閉じ籠もり、多重介護、独り暮らし、認知症者、認認介護等々困難事例を検討し、関係機関が役割分担をして、支援を行ったらいかがでしょうか。そのことで、これまでに見逃されてきた問題、事例を解決に向けた取組みができると思われまます。

3点目に、ネットワーク会議のような会議は、ともすれば有名無実化しやすいものです。年に1回、事務的に定例会を開催しているようなところが多いです。町行政が責任を持って主催し、官民連携の下、実効力のある組織の構築を行ったらいかがでしょうか。

これらの提案に対し、町長の所見をお伺いいたします。

○副議長（佐々木一郎君） 青柳町長。

町長（青柳良彦君） 登壇

○町長（青柳良彦君） それでは、長谷川議員の質問にお答えいたします。

まず、本町の孤独死対策の取り組み状況についてですが、対策の1つ目として、在宅の高齢者の異変をいち早く発見し対応するために、民生委員や町内3か所の在宅介護支援センター職員が、高齢者のみ世帯や独り暮らし世帯を定期的に訪問し、声かけや困り事の相談に乗るなど、不安のある高齢者の見守りと安否確認を行っています。

また、在宅高齢者で給食サービスを受けている112世帯には、給食を配達するボランティアの方々による見守りが行われています。

2つ目に、町は、急病や災害等の緊急事態に対応するため、特に独居で生活に不安を抱えている独り暮らし高齢者等120世帯に、緊急通報システムを配備しています。この装置は緊急通報ボタンを押すと、自動的に消防署に通報され、必要に応じ救急車が出動します。また、通報された情報は介護福祉課にも共有され、親族への連絡等の対応を行います。

3つ目に、町内の金融機関や新聞販売店、電力会社、宅配業者など10事業者と地域見守り活動の協定を締結し、職員や配達員等が業務中に普段とは異なる様子であるなど何らかの異変を察知した場合、地域包括支援センターや介護福祉課、緊急の場合は警察署、消防署に通報する連絡体制を整えています。

次に、孤独死対策として、高齢者支援の在り方を見直すため、長谷川議員のご提案に対する所見をまとめて述べさせていただきます。

現在、町民や先ほど挙げた関係機関、役場関係課が連携し、高齢者の異変に気づいたときは、町が親族や、場合によっては警察や消防とともに、安否を確認し、孤独死を未然に防ぐよう対応しています。議員ご提案のとおり、日頃から関係する者が顔を合わせ、事例の検討や意見交換を行って、それぞれの役割を認識することで、孤独死防止の意識を高め、より予防的、重層的な連携支援ができるようになると思えます。

町といたしましては、まずは役場内の関係課において、孤独死をはじめ今後加速化する超高齢社会における課題や問題の対応策を検討するとともに、町内の高齢者や障害者、生活困窮者等への支援に対し、共通認識を高め、横のつながりをさらに強化していきたいと考えています。

また、現在、城崎小学校区をモデル地区として、社会福祉協議会と協力し、地域住民による見守り等の支え合いを推進する小規模なネットワーク活動について、研究及び協議を行っています。県内では大野市が市内全域でこの活動を活発に進めていますので、本町でもこの優良事例を参考にし、町内全域で対応できる方策を検討しているところです。

このような取り組みを通して、町や関係事業所、関係機関、さらには地域住民との協働により、議員が提案された地域見守りネットワークのような取り組みができれば、孤独死のみならず、これからますます増えることが懸念される老老介護や親族のいない独り暮らし高齢者、生活困窮者等の問題に対応できるものになると考えています。今後も現在の体制を充実させ、必要な支援を行ってまいります。

以上です。

○副議長（佐々木一郎君） 長谷川眞恵さん。

○5番（長谷川眞恵君） 町長の答弁をお聞きして、気になった点をお伝えさせていただきます。

まず、ちなみに、越前町では1、236世帯の独り暮らしの高齢者がおられます。1つ目の箇所、在宅高齢者への対応について、民生委員や在宅介護支援センター職員が定期的に訪問して、見守りと声かけ、安否確認を行っているとの件ですが、町では、69人の民生委員がおのおの1人で幾つもの集落を担当しております。

それから、在宅介護支援センターは町内に3か所あります。令和3年度の実績におきましては、朝日・糸生地区を光道園さざんかの在宅介護支援センターの職員1名で342人を担当いたしました。宮崎・織田地区を社協の在宅介護支援センターの職員1名と臨時職員1名、合わせて2名で757人を担当いたしました。越前地区を海楽園の在宅介護支援センターの職員1名で180人を担当いたしました。果たして、この体制で見守りや声かけ等の安否確認が十分にできているか、心細い限りです。

次に、給食サービスの利用者は112世帯と少なく、月2回の配達で見守りとまでは期待できないと思われます。自治会長、区長を中心に身近なインフォーマル資源にもっと協力を要請して、集落内の要援護者、独り暮らしの高齢者、老老介護家庭等への見守り支援体制を構築することが求められていると思います。

2つ目の緊急通報システムの利用状況も120世帯と少なく、気になるようです。

3つ目の地域見守り活動協定締結事業所を通じての異常事態の通報などにおいては、今年度は実績ゼロ件です。町として、関係各課の横のつながりを強化するところから始めていきたいと言われてはいますが、先進事例に学びながら、孤独死対策への施策を積極的に推進していただきたいと思います。

今、人生の最後を迎える独り暮らしの高齢者の孤独死対策と、これからの国を背負う子どもたちの健全な育成が最も大事な課題ではないでしょうか。これまで一生懸命に生きてこられた方が人知れず孤独死でお別れする姿は、何よりも残酷に思えます。

○副議長（佐々木一郎君） 答弁はいいんですか。

○5番（長谷川眞恵君） はい、答弁は結構です、今は。

○副議長（佐々木一郎君） これで、長谷川眞恵さんの一般質問を終わります。

（午後1時18分 終了）